

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\*本田乾板(1971年6月19日)1枚収蔵**

国立天文台天文情報センター・アーカイブ室では国立天文台の旧図書館(昭和5年(1930年)建設)の1階に保管されている古い天体写真乾板等の整理を進めている。この作業の一環の中から昭和20年2月の本館消失で失われたと思われていた100年以上前に撮影された写真乾板が発見され、日本人最初の小惑星発見の写真乾板が出てくるという大きな発見もあった。天体写真乾板の整理は佐々木君、大島君が進めており、筆者はこの物置状態の棚から確たる資料とも思えない雑物の整理を引き受けている。今回は1枚の乾板が入った速達郵便で送られた印画紙の箱(写真1)を収蔵した。

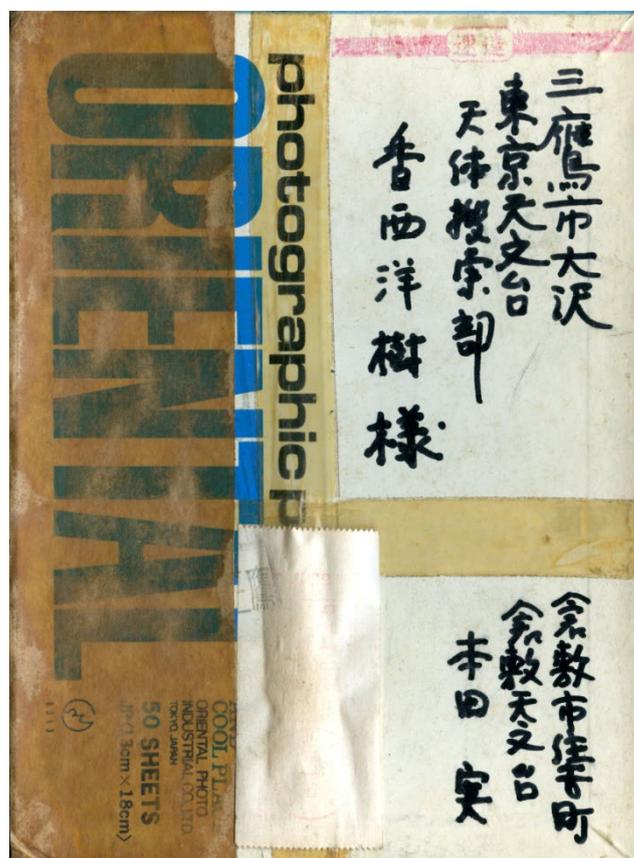


写真1 乾板が贈られた印画紙の箱

写真1には、人の名前が住所を含めて2人入っている、今のご時世ではこのようなものは公にすることは憚られるが、すでにこの住所には存在しない機関だったり、存命していない人だったりするので歴史的資料として出させてもらった。これを世に出すことで迷惑がかかる人はいないと思う。ここで、この郵便が何時出されたか、消印を調べたがすでに40年以上を経ておりほとんど読み取りが不可能であったが、現在のスキャナーの威力、

画像処理能力はすばらしい。写真2のような文字が浮かび上がってきたのである(写真2)。



写真2 25. 6. 71 という文字が出てきた消印

ちなみにこの郵便物は速達で出されており、料金は145円と読める。

この箱には1971年6月19日に撮影された1枚の写真乾板(写真3)が入っていた。

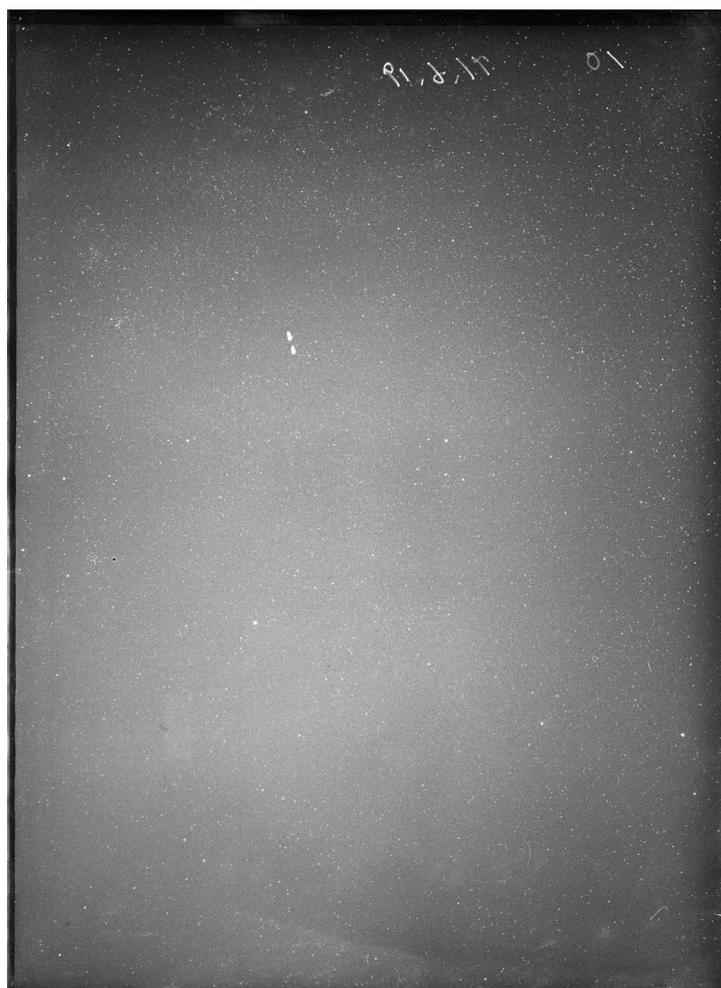


写真3 1971年6月19日撮影の乾板

この乾板の右肩には、その日の撮影番号 10、撮影年月日 71.6.19 が書かれている（写真 4）。



倉敷天文台の本田氏がこの乾板に新天体と思しき天体を発見し、印をつけた乾板を東京天文台の新天体発見担当に送ったものである。その印の部分の拡大したものが写真 5 である。

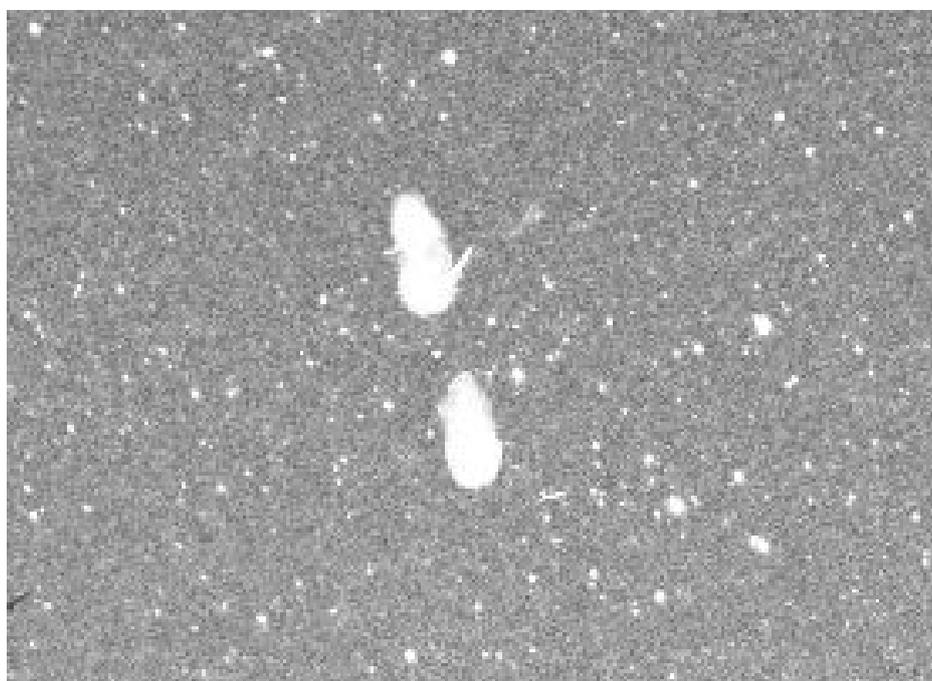


写真 5 乾板の印部分の拡大

この 1 枚だけでは、今となってはどうしようもない。この乾板には撮影年月日は入っているが、 $\alpha$ 、 $\delta$  のデータがないし、前後に撮影した乾板もない。

コメットハンターとしてご高名な本田氏が、東京天文台の担当者に送った書状でもあればなにがしかのことは分かるが仕方がない。

この郵便の宛名が、天体搜索部宛になっているが、実は天体掃索部が正しい。東京天文台では、搜索観測ではなく、掃天観測をしていたのである。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)